

## 社会基盤の再定義

土岐 憲三  
論説委員  
立命館大学教授

広辞苑には社会資本という項目はあるが、土木系の大学院の専攻名などによく使われる社会基盤という語は見当たらない。国語辞典でも同じであり、社会資本の項には、国や地方公共団体によって供給される社会的共有財産と記されている。英語の辞書には「Infrastructure」は「下部構造、下部組織」という訳語が与えられているのみである。オンライン百科事典である「ウィキペディア」では、インフラストラクチャの説明として、社会資本としての一般的な諸施設を挙げ、社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成するものの総称である、と説明されている。いずれにせよ、社会基盤という言葉は、日本語としての市民権は得ていないようである。

社会基盤はインフラと略称されて社会資本と同義として用いられることが多く、現在社会において必要な基盤的な施設の総称として使われている。さらには携帯電話やテレビなどの情報通信システムも重要な社会的基盤であろう。このように列挙してみると、いずれもが人間の利便性の追求に資するものであり、現代人の物質的活動に必要であると同時に、その結果として生み出されたものの総称である。

しかしながら、今日の社会を構成する基盤はこうした施設だけであろうか。たとえば、京都には年間 4700 万人の観光客が訪れるが、それらの人々の多くは神社仏閣などの歴史遺産を観て、仏像や絵画などを鑑賞するために行くのである。これらの歴史的建造物や古くからの美術工芸品は、いずれもが文化遺産あるいは文化財である。文化は目には見えないが、それが形あるものとして遺されてきたものが文化財である。そして、文化は言うまでもなく各時代の先人の精神活動が生み出したものである。このように考えれば、先人の精神活動を知るよすがが文化財であり、文化遺産を通じて先人がどのような文化を持ち、当時の人と人がどのように心を通わせていたのかを知りうるのである。そして日本人としてのルーツやアイデンティティーを探しているであろう。文化遺産の残されていない縄文人以前の人々の精神活動は知るすべが無いのである。

文化財は明らかに観光資源でもあり、多くの人々が産業としての観光に携わっていることから明らかなように、先人の遺した文化財は現代人にとっては社会の重要な構成要素である。文化財が社会を構成する重要な要素であれば、社会基盤の一つとして考えるべきなのではないだろうか。道路や港湾などが物質的活動をするのに必要とするものであれば、文化財は先人の精神活動が生み出したものであると同時に現代人の精神活動にも必要欠くべからざるものである。このように、人間の物質的活動と精神的活動により生み出されたものが社会を構成するとともに、現代人がそのいずれをも必要としているのであれば、この両者を合わせたものを社会基盤と定義しても良いのではないだろうか。

人や社会には、物と心、進歩と伝統、人と共同体、の三つのバランスが必要であるが、日本人は戦後の 5 - 60 年は「物」と「進歩」と「人」に重きを置きすぎたことに気づき、最近では「心」と「伝統」と「共同体」にも気を配り始めたと政治学者の中西

輝政は言う。この中で、「心」は精神活動そのものであり、「伝統」を伝えるのは文化財である。このように考えるとき、現代社会において必要なのは「物」と「進歩」に貢献する社会資本のみではなく、文化財の位置づけがこれまでより重くなるのではないか。20世紀後半のわが国の発展において土木の果たした役割は大きかったが、21世紀になると次第に将来に託す夢が無くなりつつあるといわれる。今こそ高い精神性を持つ分野を取り込むことによって、活動の範囲を広げるとともに、この分野に関わる人々に新しい夢と希望を与えられるのではないか。

文部科学省により国公立大学の全研究分野を対象とした21世紀COE(Center of Excellence)が5年前に始まったが、工学の物理系としての機械、土木、建築、原子力などの分野では、100余の応募課題の中で約5倍の競争率にも関わらず、文化財の防災問題を扱ったものが採択されている。文化財と防災を融合しようとする全く新しい分野であるにも関わらず採択されたのも、新分野を開拓することへの審査員の期待の表われに他ならない。土木以外の研究者も新しい視点を持つ土木の出現を望んでいるのであろう。

国土交通省は、これまでは文化財と直接的な関わりを持つことは多くは無かったが、最近では都市における歴史的風土や文化遺産を国土の整備計画と結びつける計画を持ち、これを単なる理念の提示とするのではなく事業化することも始めている。国土交通省のみならず文化庁との共管で推進しており、まさに社会資本の整備に文化遺産を組み入れようとしているのである。社会資本と文化遺産を結びつける流れが、すでに始まっている一つの証左であり、これらを併せて「社会基盤」を再定義してはどうだろうか。